

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	RAS 遺伝子野生型の治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する一次治療での抗 VEGF 抗体薬または抗 EGFR 抗体薬併用療法の有効性を腫瘍占拠部位別に比較する観察研究
	研究目的	切除不能・再発の大腸癌に対しては、殺細胞性抗癌剤（フッ化ピリミジン、オキサリプラチン、イリノテカン）を軸とした全身化学療法が一次治療として確立しています。その殺細胞性抗癌剤と併用する分子標的薬として、ベバシズマブは血管新生阻害作用により抗腫瘍効果を示す薬剤(抗 VEGF 抗体薬)であり、セツキシマブやパニツムマブは、上皮成長因子受容体に作用することで抗腫瘍効果を示す薬剤(抗 EGFR 抗体)です。海外で実施された試験では腫瘍占拠部位(右側と左側)によって、ベバシズマブとセツキシマブの治療効果が異なることが報告されました。その結果は、右側原発では無増悪生存期間（PFS）/全生存期間（OS）ともに抗 VEGF 抗体薬が良好であったのに対して、左側では抗 EGFR 抗体が有効であることが示唆されています。しかしながら日本人における報告がありません。本研究では国内における抗 VEGF 抗体薬(ベバシズマブ)併用群と抗 EGFR 抗体薬(セツキシマブ、パニツムマブ)併用群の治療成績を腫瘍占拠部位別に有効性を比較することを目的としています。
	研究対象者	2013 年 1 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日までに、RAS 遺伝子野生型の治癒切除不能進行・再発大腸癌に対して、一次治療として殺細胞性抗癌剤(フッ化ピリミジン、オキサリプラチン、イリノテカン)に抗 VEGF 抗体薬(ベバシズマブ)または抗 EGFR 抗体薬(セツキシマブ/パニツムマブ)のいずれかを併用投与された患者
	研究期間	西暦 2018 年 8 月 23 日～西暦 2020 年 12 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器外科 部長 塩澤学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	国立がん研究センター中央病院：高島 淳生 静岡県立静岡がんセンター：白数 洋充 東京医科歯科大学：植竹 宏之 筑波大学：森脇 俊和 大阪国際がんセンター：杉本 直俊 大阪医科大学：後藤 昌弘 東京慈恵会医科大学：猿田 雅之 岡山大学病院：藤原 俊義 防衛医科大学校：上野 秀樹

	九州大学病院：馬場 英司 神奈川県立がんセンター：塩澤 学 千葉県立がんセンター：傳田 忠道 群馬県立がんセンター：尾嶋 仁 新潟県立がんセンター新潟病院：瀧井 康公 高知医療センター：島田 安博
--	---